

この部屋から、旅に出よう。

Vol.15

Platform



ここは仮想世界の
登山口

station

- VRChat : VR Trail
- cluster : ためいき山
- Resonite : ちよつばや 冬のキャンプ場
ワールド
- Real.W : ミリオンペタルバイパーク

Platform → contents

Vol.15

Gravure:somewhere4
Yamaha Motor - VR TRAIL VRChat12
ためいき山 cluster18
ちよつぱやワールド 冬のキャンプ場 NeosVR24
ミリオンペタルバイワーフ Real.W30
あとがき36

第15号のテーマは「山」。

雄大で人間という種族の小ささと自然の偉大さを思い起こさせる存在が山だと思っています。そんな自然の権化のような山が、仮想世界に来たらどうなるでしょうか？あるいは、仮想世界の存在が現実の山の中に入っていったら？

今号では、フォトグラメトリの技術を活用して、現実と仮想の垣根を揺らがせるようにしてみました。仮想・現実・自然・人間。これらの対比の中から、あなたには何が見えて来るでしょうか？

編集長

To the next PLATFORM.



世界には、色々な町がある。

その町ひとつひとつに、駅がある。

どの町も駅もそれぞれ違っていて、
違った人たちがいて、
そこを訪れた僕たちが抱く思いも、
きっと違うのだろう。
……VRでも、Real Worldでも。

今はまだ離れ離れの「駅」を、「町」を、
あなたへ繋ぐ線路でありたい。

——それが「Platform」



Go to
Top of the
World.



Nearest
Place to
Heaven
that
I've seen.



あの山の向こうに、何が待っているだろう。



Author: mo_末
World: Somewhere

風を感じて山を駆けよう。

VR TRAIL



私

は実は自転車が好きだ。

といつても、自転車のレースをみたり、自転車の賭博をやったり、高価な自転車を買ったり1日100kmも走ったりするわけではない。普通のクロスバイクで、普通に2時間ぐらいサイクリングする、みたいなレベルだ。そう言えば昔、『東京自転車少女』という東京都練馬区のみを舞台にした、すごいローカルな漫画があった。主人公が練馬区の高校に通っているから練馬区内をポタリング（目的地を特に定めることなく自転車で散歩するようにゆったり走ること）するという漫画だったけど、「え、ローカルな話でここまで漫画かけるんだ」と思って全巻揃えた。せいぜい自分がやるのもポタリングという感じ。全然やり込んではいないから、ガチで自転車をやっている人の前では「好き」というにくいレベル。『ハンチョウ』の

写真／一兎

「コーヒーの銘柄に詳しくないけど、本当にコーヒーは好きなんだ」みたいな「好き」。それが私にとっての自転車だったりする。しかも、これまで自転車に乗ってきたのは当然平地で、せいぜいちょっとした坂がある場所を走破するぐらいだったが、今回の私は一味違う。バーチャルな世界とは言え、険しい山を攻略しようというのだから。

今回やってきたのは「Yamaha Motor - VR TRAIL」というワールド。こちらはなんと！あのYAMAHАが直々に制作したワールドだ。YAMAHAというと、音楽畠で育った私としてはまずピアノなのだが、バイク好きの人からすればバイクだろうし、他にも多種多様なジャンルで製品を世に送り出し続けている大企業である。そんな企業が今度はなに





コースがある森町の御当地マップなど街興しも意識されている。
また実在の一本杉をモチーフにした展望台など意外に見所が多い。

ほうほう、なるほど。こんな風に作られているのか。あ、ここの中庭の場所、こないだ自分の自転車でぶつ壊したところだな。あー、ちょうど負荷がかかる部分なのかな……などとまじまと見てしまった。

ずっと自転車を見ていても仕方ないので、実際にコースを走ってみることにする。なんと10か所以上もマップが用意されているのだが、とりあえずは初心者コースから。どうやらコントローラーでハンドルを切り、ブレーキをかけて、くねくね曲がった山道のコースを下るらしい。道中にはポイントが貰える大きな栗が置いてあるから、それを回収しつつタイミングアタックを行うと。よし、とりあえずやってよう。スタートするとゆっくりと自転車が動き始める。ハンドルを動かすと、自分が想定したよりも思いつきり動く感じがする。これ、わりと繊細な操作を要求されるなあ。一つ目の栗を回収し、ブレーキをかけ、曲がる。よしよしコースアウトせずに最初のカーブを曲がれた。そのままそのまま……。

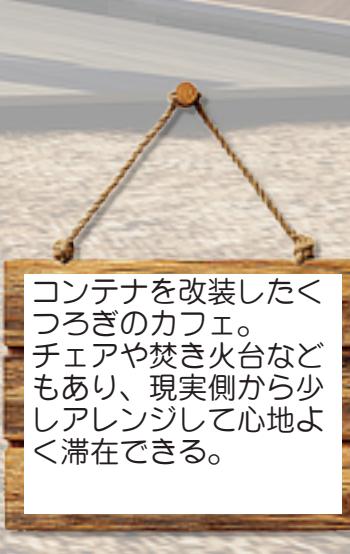
コースを走れる高性能電動MTB MT-PROが展示されている。
精緻なディテールやリアルなアニメーション動作はまさにメーカーならでは。



ワールドに入ると、いきなりコースがあるのかと思いつきや、マップの説明や製品の紹介、元となつたMBTコースのあら御当地の紹介動画が置かれていた。受付やカフェまである。良く見るとこのワールドの作り込みはすごいな！木や道路がキチンと再現されている。光の当たり具合もちょうど良く、大体5月くらいの気温さえ感じられるほど。そんなエンタランスで一番目を引いたのは、マウンテンバイクのモデルだった。ボタンを押すと展示されている自転車のペダルが周り、チャーンが動くようになっている。



コースへは中央の地図から移動できる他、手元に呼び出せるタブレットからもテレポートできかなり高機能。
チュートリアルも充実している。



コンテナを改装したくつろぎのカフェ。
チェアや焚き火台などもあり、現実側から少しアレンジして心地よく滞在できる。



Yamaha Motor - VR TRAIL

By Yamaha-Motor
(ヤマハ発動機株式会社)

Join in Official Group

今号では、元となつたMTBコース「ミリオンペタルバイクパーク」も取材している。ぜひ写真を見比べてみて欲しい。



ルドは作り込みときたら、まるで本当の森で森林浴をしているみたいだ。二、三回、深呼吸をする。酔いが収まるまではもう少しかかりそうだから、もう少しこうしていよう。このワールドでの山下りと、その後の休憩時間。これは、新たに発見した、自転車をやる時の「好き」かもしれないな。そう思つて、もう少しだけ休憩を続ける。ああ、ここはいい天気だ。

(文ニツソ編集長)

ようやくゴールすると、どつと疲れが
きた。いやー、これ意外とキツいなあ。
初心者向けとはいえ、結構曲がりくねつ
ているし、デコボコしているからガクン
ガクンとして少しVR酔いしてしまった
ようだ。休憩をしようと思つてゴール地
点で立ち止まつていると、木々の合間か
ら射し込む日差しに気が付く。このワー

あっ！と思った瞬間、加速する。斜面の角度が急になつていて。慌ててハンドルを切ると、思ったより動く！ そうだ、これは繊細な操作が要求されるんだった！ ブレーキをグッとかけると完全に停止。体制を立て直してから、続きを下る。栗を拾う、ブレーキをかける、曲がる。栗を拾う、加速する、ブレーキをかける、栗を拾う、曲がる。加速する。加速する。加速する。曲がる。曲がりすぎる。焦る。加速する。加速する。焦る。焦る。コースアウトする。もういいや突つ切っちゃおうと思う。加速する。加速する。加速する。加速する……。

ためいき山

cluster

「はあ……」つと重い息を

吐き出すような、静かな山の夜。

展望台から眺める山の風景が

ためいきのように夜空へと
広がっていく。

山の自然に 触れて

ているよ。

と、そんなことを思い出させてくれた
今日のテーマ「山」だけど、いま私は
clusterにある「ためいき山」というワー
ルドに来ているよ。「ためいき山」のた
め息の意味はね、作者さんがワールドの

概要欄に書き残してくれているよ。「た
め息が出るような夜。広くて静かな山の
中で、ひつそりと過ごしたいときもある。
ためいき山はそんなあなたをやさしく守
ってくれます。」

ため息が出るような壮大な景色の中で、
まつたりと流れしていく景色を眺めながら

文章を綴る私。この大自然の山の中で自
然を感じながら頭に浮かぶ思いを文章に
変えながら、一言一言書き残していく、
静かなこの世界と共に。

少しだけこのワールド（世界）を紹介
しようかな。このワールドに降り立つと、
そこは山の中腹。目の前には山の頂上に
向けて伸びる階段の道が伸びているよ。

その階段を登る前に少し周りを見渡すと、
そこには山のふもとへ繋がる道。

さて、どちらに進もうかと迷うけれど、
せっかく山に来たのなら山の頂上からの
景色を見たいよね。と、頂上めがけて階
段を登っていくことにする。

山を登る階段を登りながら時々後ろを
振り返ると、少しずつ見えてくる山の全
体が、この世界の自然を静かに教えてく
れているような、そんな気がするね。階
段を登り終えて見てくるのは少し広がっ
た広場。その広場には、さらに高いところに登れる展望台がそびえ立っているの
が見えてくるよ。

でもそれだけじゃなくて、小さな休憩
場所に祠のような場所もあるね。山や川
や湖とかの大自然が広がる場所って、昔
からこういった神社とか祠とか、お寺と
かお地蔵さんとかがあつて。ここに何か
が居るんじやないか、あるんじやないか
って、確実に何かあるってわけじやない
のに、何か掴むことのできない何かがあ
るような、そんな気持ちになるよね。

「山」、みんなは山と言われて何を思
うかな？私は山といえば自然、とりわけ
自然と一緒に過ごすキャンプを想像する
かな。私が生まれ育った場所には、いわ
ゆる山と言われる場所は近くになかった
から、キャンプとか特別な時に訪れる、
ちょっと特別な場所って印象だよ。

みんなが生まれ育った場所の周りには
山があったかな？それとも海があったか
な？それともコンクリートで出来たジャ
ングルで育ったのかな？どれが良いって
ことはないけど、それぞれ育ってきた環
境で同じ言葉、同じ場所でも違った感じ

方をするんだと思うの。

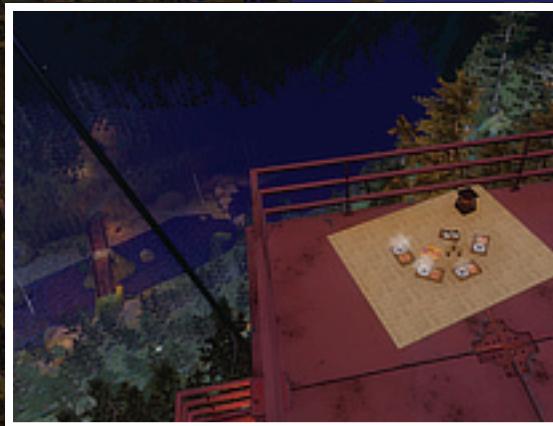
でもどんな形であれ、それぞれが感じ
る世界はとても素敵な感じ方であると思
うし、そうであればいいなって私は思つ
ためいき山

写真／rocksuch

大きな広場と展望台、

絶景の穴場

階段を登りきると、広場には高台に立つ展望台がある。ほかにも小さな休憩スペースや祠（ほこら）など、ちょっとしたパワースポットも点在しており、静かに楽しめる場所となっている。



山の展望台の上から見ると庄巣。川の方までくっきりと見える。

展望台を登ると、そこは山の中で一番高い場所。山も山のふもとに流れる川も見下ろすことができる景色がとても綺麗な場所になっているよ。この世界が夜なものあって、ところどころに見えるライトの光や綺麗な星の光がとっても綺麗に見える幻想的な場所だね。

だから何かってわけではないけれど、それでもこういうのを見ると自然と手を合わせて、どうかここを訪れるみんなが、ここから見下ろせる世界のみなが、幸せで居られるようにと。見守ってくださいと思ってしまうのは人の性なのかな？

この場所には座敷が敷かれていて、今日の私は一人で来ているけど、フレンドさんを連れて一緒に景色や星空を見上げながら雑談にふけるっていう過ごし方も良いんじゃないかな。いつもとはちょっと違った世界の中で過ごす非日常な体験が出来ると思うの。

それから、場所は変わって山の麓にやつてきたよ。移動はメタバースらしく、先ほどの絶景スポットから頂上の方に戻る途中にある写真からテレポートすることができるよ。自然の中を歩いて移動するのもともいいけれど、こうやってぱつと移動できるのもメタバースのいいところだよね。

そうそう、この展望台も良いんだけど、先ほどの祠の隣から続いている小道を進



んだ先もおすすめのスポットになってい るよ。少し山から突き出した形の空間は、山の頂上とはまた違い山と麓に流れる川が一体となっていて、自然を感じることができます。できる絶好の絶景スポットになつていると思うの。いっしょに置かれているコ -ヒーを片手に、この自然を心行くまで堪能してみるのはいかが？

そんな山の麓には大きな川が流れているよ。大きな川といつてもキャンプ場がありそうな、深くないところもある感じの穩やかさもありつつ、でもちゃんと水の迫力も感じられるあの感じ。きっとアーリだったら川の河川敷でキャンプを楽しんでいる人がたくさん居るんだろうなって思うくらいにはいい雰囲気の場所だよ。ちょうどキャンプ場らしく川岸に車が置いてあって、きっとキャンプで遊びに来た誰かの車なのかもしれないね！なんてねっ♪



山の河川敷にキャンプ場があり、食事ができるスペースも完備。

という感じで今日は「山」というテーマでいろいろなワールドを巡り歩いて見つけた、大きな山とその麓に流れる川、そして夜空いっぱいに広がる星々に包まれながら自然の壮大さを改めて感じさせてくれるような、そんな旅路だったかな。

日ごろの忙しさに忙殺されて、ついで忘れてしまいそうになる心の豊かさを、自然が私に与えてくれる。この世界を回りながら、そんな何かを感じ取ることが

いう感じで今日は「山」というテーマでいろいろなワールドを巡り歩いて見つけた、大きな山とその麓に流れる川、そして夜空いっぱいに広がる星々に包まれながら自然の壮大さを改めて感じさせてくれるような、そんな旅路だったかな。

日ごろの忙しさに忙殺されて、ついで忘れてしまいそうになる心の豊かさを、自然が私に与えてくれる。この世界を回りながら、そんな何かを感じ取ることが

ためいき山

by しかくいすいか

Clusterには珍しい、広大な山の風景を堪能できるワールド。長く続く階段や展望台、キャンプ場などがある。



ACCESS

みんなの毎日に、私の毎日に、自然の恵みが在りますように。
(文..ことはしろ)

広く清らかな川で

アウトドア

山の麓には大きな川が流れおり、そこで釣りやキャンプなどのアウトドアを楽しむ人の姿も見られる。





好奇心、無限大。

ちょっぱや ワールド

冬のキャンプ場

CHOPPAYA
WORLD
WINTER CAMPSITES

写真／Tokikaze

ちょっぱや ワールド

冬のキャンプ場

Resoniteといえば、その場でアイテムを取り出したり、ワールドを作成できる。VRでキャンプを楽しんだ気分になれる。

好奇心は違和感から

今回著者が紹介するのは『ちょっぱやワールド冬のキャンプ場』だ。恐らく本誌が掲載されるのは夏真っ只中であるため、「ちょっぱや」どころか北半球から南半球への旅行もかくやの時期外れだが。

本ワールドはオレンジ氏らが主催する「ワールド制作イベント・ちょっぱやワールド」で作成された。ワールド内に大人数のユーザーがログインした状態で、様々な3Dモデルやギミックなどを設置する、クリエイティブに特化したResoniteならではのイベントだ。過去にはお題としてツリーハウスの回やハロウィンの回などがあったが、今回は「冬のキャンプ場」を取り上げるというわけだ。

さて、本号のテーマは「山」であるが、本ワールドは冬山に設置されたキャンプ場とも解釈できる。上空には降り注ぐ無

数の流星やオーロラ。雪景色に求める定番で満ち溢れた世界。しかし、ワールドに降り立つて目を引くのは、周囲の小高い丘に設置されている気象レーダーらしい物体である。実物はより大きい、もしくはより小さいのかもしれないが、とにかく間近で見上げるとその巨大さに圧倒される。

例えば高速バスの窓席から外を眺めた時、山の頂上有る気象レーダーを遠目に見たことは何度もあるが……「そこには何があるのだろう?」と思いつつ、何度も見たことあるようで、しつかりと見たことがないものをよく確認できるのは、メタバースならではの魅力だ。

Vol.12（テーマは車・車両）で著者が取材した際の『阿讚サー・キット』もそうだが、Resoniteは特にこうした熟視（時に窺視）的な経験をすることが多い。

夜空に映える

冬のキャンプ場

過去回と言えば、本ワールドはVol.3（テーマは「混沌」）でも取り上げることができたかもしない。雪山に閉ざされた場所で、豪華な食事が置かれるテー
ブルがある。そこで、キャンプテントはまだしも、ライブスタジオが設置されたり、クリスマスの晩餐会のように豪華な食事が置かれるテーブルがあった神社の他、ある日突然地下から湧き上
がったかのようにポツリと温泉まである。場違いにもオリジナルのスノーボードが作れるギミックがあるが、これは恐らくVol.4で著者が取り上げた『Snow board



シーズン2』にあるものと同一である。

しかしこれだけ混沌とした山の中でも、特に好奇心をくすぐられるのは、「この先危険につき関係者以外立入禁止」と書かれた看板が、入口に設置されたトンネー¹ダ²ーが設置されている場所なんかは、現実世界では関係者でもない限り立入禁止だから、間近でレーダーを見上げることができるのはごく少数だろう。しかしここはメタバース、命の危険や法を犯す心配はない。背徳感に思わずニヤリしながら、トンネルを進む。



山の上には大きな気象レーダーが並んでいる。光に照らされたアンテナを見るとなかなかの圧巻である。

CHOPPAYA WORLD
WINTER CAMPSITES

ぼくらが作った

最高のキャンプ場

このワールドは『なんでもあり』。温泉やライブスタジオ、豪華な食事などがあったり。VRならではの可能性で面白さを引き立てるのだ。



この先 危険地帯!?



このワールドにはトンネルがあり、中に入ると宝箱が！しかし、魔物も潜んでいるとか……？

CHOPPAYA WORLD

WINTER CAMPSITES

(文..sun)

のまま危険地帯に足を踏み入れたら最悪命を落としてしまうかもしれないが、禁忌を突き進む解放感と、何らかの達成感を感じたいならば、安全安心、気軽に実行できるメタバースでは非実行して欲しい。

思えば好奇心がくすぐられるのは、『違和感』を覚えた瞬間が多いかもしれない。山の頂上にある気象レーダーや、不自然に設置された人工物、それから立入禁止の看板。山はその大きさ、存在感からして人里においても認知しやすく、故に自然の中では違和感を感じやすい。好奇心

さて、もう一方は暗闇に遮られて先が見えず——たしかワールドのタグにホラーの文字はないので、一応大丈夫だとは思うが——息を呑んでから暗闇を駆け抜ける。案の定というべいか、備えていて正解だった。円形の広場の中央で、両目が悍ましく赤光りする骸の竜。無機質に併む複数の仏像が、壁の向こうからこちらを見下ろす。西洋の暴力的な威圧と、東洋の陰湿な不気味さの併せ技。

か
つて山は恵みの源だった。燃料となる薪炭を始め、木材や漆、薬草：山の様々な恵みは入会という概念のもと地域の共有財産となり、何百年もの間、人々の生活を支えてきた。その恩恵は山から遠くの都市にまで建材という形で及び、今も各地に残る「木場」という地名がそれを伝えている。

しかし特に戦後、人々の生活は山との関わりを失いつつある。化石燃料への転換や、都市部への人口集中。各種構造材の鉄・コンクリート・プラスチックへの移り変わり。材木も安価な輸入材が殆どとなつた。山の香りは日々の生活から失われ、それとともに里山はもはや富を産まなくなり、人々から忘れ去られた場所となりつつある。

かつて遠江と呼ばれた静岡県西部を北上すると、南アルプスの山々に行き当たる。その麓に位置するのが森町で、その名の通り7割以上が森林に覆われた山と森の街である。新幹線の停まる掛川駅より天竜浜名湖鉄道で25分の

森町役場から、さらに北へ車で40分近く。都会っ子にはちょっとした秘境に『ミリオンペタルバイクパーク』はある。森町の山林を切り開いて作られたマウンテンバイク(MTB)の専用コースにして、本誌で先に紹介した『VR Trail』のオリジナル。森町に工場を持つヤマハ発動機とも深い関係を持ち、それが『VR Trail』につながった。ミリオンペタルの名はコース内に咲く桜の無数の花弁と、地主である甚沢万之助氏にちなんでいるという。



Real World

写真／思惟かね



められたコースの起伏と土の彩。森に分け入る軽トラの土と汗にまみれた佇まい。早朝のしんと冷えた香しい山間の空気に、木を削る工具の音が響く。仮想空間とのコントラストゆえだろうか、自然の中に人の手で作られた空間のリアリティが、より一層感じられる。

やがて開場時刻となり、続々と自転車を積んだ車がやってくるが、思ったより子供や若者が多いのに驚く。慣れた手つ

きで愛車を下ろすベテランに混じって、レンタルした自転車を恐る恐る駐車場で練習する若者や、早く行こうよと母親を急かす子供も多い。

一足先にコースで待ち構えていると、やがてMTBに乗ったライダーが駐車場から登ってくる。そして登っていく……。と思えば、不意にそれがすごい勢いでコースを下ってくるのだ。ダウンヒルとい

う遊び方で、ペダルを漕ぐことなく重力

を背に受けてコースを右へ左へ走り抜け。熟練者がバンクを使ってコーナーでスパッと向きを変えるのは魔法のよう、テーブルトップで自転車宙を舞う様には思わずため息が出る。よくよく見ればそれがまだ小学生くらいの子供だつたりして驚く。なるほど、これは楽しそうだ。リアリティというスペースは、きっと仮想空間の『VR Trail』で感じた楽しさを何倍にしてくれるのだろう。



山の恩恵を全身に浴びて走る幼いライダーたちを見や
つづ、森の空気を胸いっぱいに吸い込む。きらきら光る木
漏れ日の中、私は山を下り、街へと帰っていった。
漏れ日の中、私は山を下り、街へと帰っていった。

(文・思惟かね)

私たちの暮らしは山の恵みを必要としなくなったこの何十年、様々な歪みが生まれている。手入れされず荒廃した山林は豪雨災害を助長し、伐期を迎えて利用されない杉の人工林は花粉症の原因となっている。長年人と共にあつたがゆえ、実は山もまた人との関わりを必要としている。たしかに現代の私たちの日々の暮らしを、再び山の恵みのもとに成り立たせることはもはや難しい。けれど、新たな山との関係性を探ることもまた今だからできる。近年にわかに人気な登山やキャンプ。森林や山岳の様々な自然・文化的な遺産に親しむツーリズム。ミリオンペタルのような山を駆け巡るMTB。あるいは今、仮想世界の中で「山」という世界に触れようとしているあなたも。物理的な距離を超えて多くの人が、日常ではなく非日常の場として、山がもたらす恵みに親しんでいけば、人と山とはこれからも良い関係でいられるだろう。



< To the next Mountain.

ミリオンペタル バイクパーク



アクセス

〒437-0208
静岡県周智郡森町三倉2167-1

新東名森掛川インターより30分
新東名遠州森スマートインターより25分
国道1号線 大池インターより50分
※県道63号線もしくは県道399号線よりお越しください

営業情報

営業日：毎週 土曜・日曜
9:00から16:00
定休日：平日・雨天等の悪天候日
(祝・長期連休、臨時休業などはHPでお知らせ)

WEBページ

公式HP Facebook Instagram

さて、先にこのミリオンペタルを「山を切り開いて作られた」と言つたが、これは訂正した方がよさそうだ。じつくり見るとMTBが駆け抜けていくどのコースも、元あつた木々や地形など、自然を大切にして作られているのが分かる。山や森を取り除いて作ったのではなく、ここは山の中に、山を活かして作られている。そこで遊ぶ人たちも、ただ自分の汗だけを流して坂を登り、重力の恩恵を受け、山の斜面に抱かれてダウンヒルを楽しんでいる。若いも若きも関係なく、ただ楽しそうに。なるほど、つまり彼らもまたこの現代にあって、部分的ながらも山とともに生き、山の恵みを受けている人たちなのだ。



Gravure : somewhere

撮影 : rocksuch

VR CHAT

Yamaha Motor - VR TRAIL

執筆 : ニッソちゃん
撮影 : 一兎

station



cluster

ためいき山

執筆 : ことはしろ
撮影 : rocksuch



ちよっぱやワールド 冬のキャンプ場

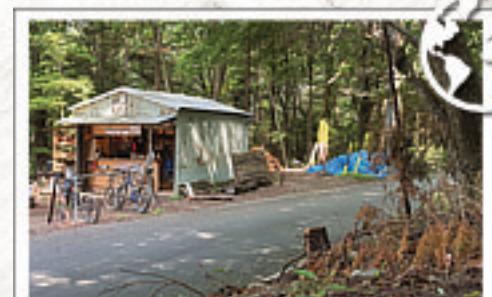
執筆 : sun
撮影 : Tokikaze



ミリオンペダル バイクパーク

執筆&撮影 : 思惟かね

感想などは
#Platform通信欄
へぜひお寄せください！



ニッソちゃん 編集長

思惟かね 編集/デザイン



今回を見た後はリアルとバーチャルの垣根がなくなり、今私たちがどこにいるのかも分からなくなりそう。そんな時にはその場所特有の匂いがあればわかるかも。例えば、海の匂いとか。次号のテーマは「海」。お手持ちの切符をなくさないように。

SUN ライター

燕谷古雅 編集/デザイン



私の生まれ故郷は港町だったため、もしかしたら人並み以上に山を『異界』と認識しているのかもしれません。故にVRゴーグルで巨大な山を見上げると、たとえメタバースでも非日常的な感覚に陥るのです。

わく ライター

ことはしろ ライター



私の生まれ故郷の県は500m以上の山がない平地すぎる県だったので、逆に子供の頃から山が舞台の怪談や昔話が好きでした。山は非日常という感覚なので、今でも訪れるとワクワクします。

Tokikaze カメラマン

一兎 カメラマン



今回のテーマでは話にあがりませんでしたが、山と言えば峠道。あの蛇のように曲がりくねったコーナーにどうして人は魅了されるのでしょうか…(おそらく特定の人だけ)

rocksuch カメラマン

Nag 校正



今回、初めてclusterに行ってみました。広場のような場所にけっこう人がいて、あちこちで話しているのを眺めていました。

STAFF

編集長 | Editor Chief
ニッソちゃん

誌面デザイン | Design
思惟かね
燕谷古雅

校正 | Proofreading
Nag

執筆 | Writer
ニッソちゃん
ことはしろ
sun
思惟かね

撮影 | Photographer
rocksuch
一兎
Tokikaze
思惟かね
わく(裏表紙)

Platform Vol.15 【あの山の向こうへ】

発行 : Platform編集部 (platformvirtualreal@gmail.com)

初版 (2025/7/6)

< To the next JOURNEY.

2025. 1. 6

Our
Journey
Continues...

Platform

あの山の
Vol.15 向こうへ